

十和田市

議会だより

No.75

6月定例会号



開拓の心・ ふるさとを愛する心を学ぶ

(7月1日(土)／十和田乗馬倶楽部)

子供たちの郷土愛を育み、地域の未来を主体的に切り拓く人づくりを目的とした市教育委員会主催の寺子屋稲生塾(全6回)の第2回目が行われました。今回は、馬産地十和田の歴史を学び、流鏝馬(やぶさめ)を体験しました。

目次

議案審議の状況 2

一般質問 3

議会改革特別委員会設置等 10

議案審議の状況

6月定例会

令和5年第2回定例会は、5月24日から6月16日まで24日間の会期で開かれました。十和田市税条例の一部を改正する条例の制定など、議案18件（発議2件を含む）、報告14件、同意20件が上程され、原案のとおり可決されました。

市民一人当たり 5千円分の商品券を発行 **可決**

電力・ガス・食料品等の価格高騰の影響を受けている市民の家計を支援し、市内経済の活性化を図るため、市内各店舗で利用できる商品券を発行します。

- ・商品券：市民一人当たり500円券10枚綴り（全店共通券4枚、中小店専用券6枚）
- ・配付方法：全世帯へ送付される引換券を持参し、市内郵便局で引換

合計**5,000**円分



農業者・中小企業者に 給付金を支給 **可決**

電力・ガス等のエネルギー価格高騰の影響を受けている農業者と中小企業者に対し、事業継続を支援するため給付金を支給します。

- ・法人：6万円、個人：2万円（条件あり）
- ・給付金総額 農業者：4,400万円
中小企業者：1億2,200万円



保育環境の充実・強化の 取組を支援 **可決**

こどもの安心・安全を確保するとともに、こどもを預けている保護者の不安を解消するため、保育施設等が行う保育環境の充実・強化の取組を支援します。

◆送迎用バスへの安全装置の導入支援

園児の送迎用バスへの置き去り防止のため、車内安全装置を設置する施設に費用の一部を補助します。

- ・補助金総額：122万5千円



◆登園管理システムの導入支援

保育士等の業務負担の軽減を図るため、保育記録等の確認・共有を支援するシステムを導入する施設に費用の一部を補助します。

- ・補助金総額：1,500万円

◆こどもの見守りタグ（GPS）の導入支援

GPSを活用した園児の見守りなどに必要な機器等を導入する施設に費用の一部を補助します。

- ・補助金総額：432万円



太田 正幸
(立憲農民クラブ)

バスケットボール競技会場の 総合体育センターにエアコン設置を

設置に向け検討

問 49年ぶりに青森県で開催される第80回国民スポーツ大会の本市競技会場の整備予定は。

答 サッカー競技会場の高森山人工芝多目的グラウンドは人工芝の全面張り替え工事を今年度実施、相撲競技会場の相撲場は屋根改築工事を令和4年度から令和6年度にかけて実施します。そして、バスケットボール競技会場の総合体育センターは、令和6年度から令和7年度にかけて長寿命化改修工事を予定しています。

問 総合体育センターの改修の機会にエアコンを設置する考えは。

答 設置に向け検討したいと考えています。

問 現在、避難所に指定された施設が、少子化による閉校や廃止の予定となっている。すぐに駆け付けることができる身近なところに避難所を設けてほしいと思うが、避難所の在り方を今後見直す考えは。

答 現時点で見直す判断には至っていません。

問 高齢者や障害のある方、車椅子利用者、乳幼児連れや妊娠中の方、オストメイトの方が気兼ねなく利用できる広さと機能を備えたバリアフリートイレを公園に設置する考えは。

答 今年度に策定を予定している公園施設長寿命化計画で公園ごとに設置を判断することとしています。

問 AI（人工知能）を活用することで効率化が図られ、質の高い行政サービスにつながると思うが、市で活用する考えは。

答 業務効率化につながる技術と認識していることから、国や他自治体の動向を参考に、有効な利活用を検討していきたいと考えています。



山端 美樹子
(自民公明クラブ)

病児・病後児保育の 利用料金の見直しを

国等の動向や利用状況を 踏まえ包括的に検討する

問 病児・病後児保育の平均利用人数はどのように算出しているか。

答 利用制限の有無にかかわらず、実際に施設を利用した年間の延べ人数を開設日数で割って算出しています。

問 市の利用料金は1,700円と他市と比較し高めの設定と感じる。見直しを検討する考えは。

答 国等の動向や利用状況を踏まえ包括的に検討していきます。

問 障害のある子供の保護者への支援体制は。

答 各場面での相談対応のほか、障害者の保護者または各障害に精通した方を身体障害者相談員、知的障害者相談員として支援を行っています。また、今年度から特別支援教育専門指導員を配置し、市民団体とも連携し一人一人の状況に応じた支援をしていきたいと考えています。

問 ピアサポート推進事業*についての考えは。

答 現在のところ実施予定はありませんが、調査研究していきたいと考えています。

*発達障害を有する方の保護者同士等の集まる場の提供等を行う事業。

問 地域交流センター「とわふる」に近隣駐車場の案内板を設置する予定はあるか。

答 景観上の配慮から新たな案内板の設置はせず、今年5月にホームページで、近隣駐車場や店舗等の情報サイトを見られるよう案内を見直しました。

問 中庭の使われ方の市の想定は。

答 市民によるフリーマーケット、ダンスや野外音楽イベントのほか、キッチンカー等による食に関するイベント、お祭り会場など、様々な活用を想定しています。



小山田 剛 士
(黎明親和会)

今年度の秋まつりの概要は

三本木大通りと官庁街通りで 山車運行

問 秋まつりの在り方について市の考えは。

答 地域や商店街のにぎわいの創出、地域内や世代間の交流が行える貴重な場であるとともに、祭りが培ってきた文化の継承など市民・地域のための市最大のイベントで、今年度はコロナによる制限のない開催が可能となり、市民の皆さんは久々の本格運行を楽しみにしているものと考えています。

参加人数の減少など時代による新たな課題もありますが、参加者と協力しながら、山車の制作やおはやしの練習などに子供から大人まで地域一丸となって取り組んでいただき、観覧される方も含めて市民全員が楽しめる祭りを目指していきたいと考えています。

問 今年度の開催概要は。

答 関係者の声を受けてコロナ前の開催方法に戻す方向で、期間は9月第2週の金曜日から3日間とし、山車の運行ルートは金曜日、日曜日が三本木大通りでの合同運行、土曜日は官庁街通りでの夜間運行を予定しています。運行の詳細は関係団体と調整を行っているところです。

問 三本木大通りで運行する際のメリット、デメリットは。

答 メリットとして、市全体、特に中心商店街のにぎわいを取り戻す機運醸成が図れることが考えられます。デメリットは、交通規制が広範囲であること、それに伴う交通渋滞対策や警備体制の強化、スタッフの増員が必要なことです。

問 デメリットに対して、どのように解決、対応していくのか。

答 交通規制の範囲については警察署や交通事業者との協議連携を図り対応します。警備体制の確保については、今年度は市職員による対応も検討しているところです。



中 嶋 秀 一
(自民公明クラブ)

防犯灯や街路灯などの
LED化に向けた計画は

施設の新規設置や 修繕に合わせ更新

問 市内に設置の防犯灯や街路灯、市営住宅でLED化されていないところはあるか。

答 防犯灯と街路灯の約9,300基のうち、約1,700基、全体の約18%、市営住宅では廊下や階段などの共用部分に設置される照明器具320台のうち、278台、全体の約87%がLED化されていません。

問 今後の交換計画は。

答 施設の新規設置や修繕に合わせ、LED灯に更新していきます。

問 全国で利用者が増えているRVパーク*を観光施設に整備や認定する考えはないか。

答 防犯対策や維持管理、ほかの施設の利用状況など、様々な視点から検討を行う必要があると考えています。

*日本RV協会が快適に安心して車中泊ができる場所を提供するために定めた条件を満たす車中泊施設

問 子供施策で定評のある兵庫県明石市では様々な取組を実施している。市は人口減少を抑えるための対策をどのように考えているか。

答 明石市をはじめ他自治体の取組も参考にしながら、長期的、総合的な視点から有効な施策、事業を迅速に実施することで魅力あふれるまちを創出していきたいと考えています。

問 若者を呼び込むための環境づくりとして雇用の創出のほか、複合大型施設が必要であると考えるが、誘致する考えは。

答 複合大型施設の当市への進出は、あくまでも民間事業者の企業戦略の上の判断となることや、市内既存店舗との競合の観点からも、市で誘致を進めることは難しいものと考えています。



笹 渕 峰 尚
(黎明親和会)

こども基本法の施行による まちづくりへの展望は

子供が健やかに成長できる
魅力あるまちづくりにまい進

問 こども基本法の施行によるまちづくりへの展望は。

答 こども基本法の基本理念を踏まえ、子供をめぐる課題の解消に向け鋭意取り組むとともに、第二期十和田市子ども・子育て支援事業計画の着実な実施に向け、関係機関と連携、協働を図りながら、子供が健やかに成長することのできる魅力あるまちづくりにまい進していきたいと考えています。

問 子供の貧困の現状と課題について調査は行われているのか。

答 令和3年度に小学5年生と中学2年生の子供やその保護者を対象に、子どもの生活実態調査を実施しました。調査の結果、回答を得た子育て世帯のおよそ1割が困窮家庭に該当しており、およそ4分の1の世帯が子育てに不安を抱えている実態が明らかになりました。

問 物価高騰による学習環境への影響は。

答 就学に係る費用の支払いが困難な家庭に対して、給食費や学用品費などの費用の一部を援助しています。また、学校給食にかかる食材価格も高騰していますが、保護者の経済的負担とならないよう、その増額分については、全児童生徒分を今年度は市が負担しています。

問 北園小学校で行われている台湾姉妹校交流等の国際交流をサポートできないか。

答 学校独自のキャリア教育に対し、「未来を応援夢わくわくスクール事業」で各校の規模に応じて、事業費を交付しています。

問 児童生徒への市民憲章の普及啓発は。

答 教育委員会が作成している小学校3・4年生用社会科副読本「わたしたちの十和田市」に市民憲章を掲載し、周知しています。



櫻 田 百合子
(黎明親和会)

犯罪被害者支援の条例制定を

鋭意検討を進め早期に制定したい

問 犯罪被害者やその家族は、ある日突然、犯罪に巻き込まれ、生命、身体、財産などへの直接的な被害だけではなく、2次的被害に苦しめられることも少なくない。県内自治体では主体的に犯罪被害者を支援する動きが広がりつつあり、具体的に必要な支援が盛り込まれた条例を定めて、必要な支援を適切に受けられるよう、それぞれの状況に配慮した対応が行われている。犯罪被害者支援のための条例制定への見解は。

答 社会全体で犯罪被害者に寄り添うことや行政機関等が連携して支援を行うことが必要であると考えており、犯罪被害者支援は喫緊の課題であると捉えていることから、当市においてもどのような支援ができるのか、県警察本部や公益社団法人あおもり被害者支援センターと情報交換をしながら、条例制定について鋭意検討を進め、早期に制定したいと考えています。

問 令和5年度で第2期中心市街地活性化基本計画が終了するが、その後の方向性は。

答 現時点で新たな施設整備の予定がないことから、次期計画を策定する予定はありませんが、関係団体と連携し、秋まつりをはじめとするイベントや創業支援・空き店舗等活用事業によるソフト事業により、中心市街地の活性化に努めていきたいと考えています。

問 商店街のアーケード撤去、修繕等の歩行空間・景観のハード面の整備が必要との声もあるが、市の見解は。

答 商店街の将来像について、商店街関係者などと意見交換していく中で、より具体的な事業の提案があった場合には、次期計画の策定も含めて検討していきたいと考えています。



中尾 利香
(自民公明クラブ)

自助共助による 防災備蓄の推進を図る考えは

必要性を繰り返し周知していく

問 防災備蓄の考え方について、家庭や地域で自助、共助による備蓄の推進を図っていくべきと考えるが、市の見解は。

答 市の備蓄方針や家庭等における備蓄に関する情報をホームページで公表し、広報や防災ハザードマップへの掲載により周知しています。また、今年度は防災マップを更新し、每户配布を行う予定であることから、こうした機会を捉え、備蓄の必要性を繰り返し周知していきます。

問 今後、市として障害者向けグループホームをどのように計画していくのか。

答 次期障害福祉計画の策定過程でアンケートを実施し、福祉サービスの利用実態などを分析、把握し、グループホームの利用見込量に反映させたいと考えています。

問 以前質問したスケートボードパークの設置について、調査するとのことであったが、どのような検討がされたのか。

答 スケートボードパークを設置している4自治体関係者に調査した結果、マナー違反、近隣住民からの苦情等があったとの回答がありました。それらの課題解決のため、今年度は安全な乗り方やマナー向上のための教室を開催し、併せて近隣住民への影響等を騒音計で調査する予定です。

問 地域交流センター「とわふる」の利用者のために旧みちのく銀行駐車場を整備し、解放できないか。

答 中心市街地への回遊やにぎわいを創出することを目的とした施設のため、現在のところ想定していません。



氣田 量子
(自民公明クラブ)

「書かない窓口」導入への取組状況は

令和7年度の導入を目指す

問 申請書に記入せずに証明書発行等の手続きができる「書かない窓口」の導入は来庁者の利便性向上だけでなく、職員の負担軽減にもなると考え以前にも質問していたが、取組状況は。

答 市DX推進ビジョンで令和7年度の導入を目指すこととしており、今年度から受付体制や経費等の課題を整理するとともに、他自治体の事例や導入するシステム等について具体的な調査、検討に着手していきたいと考えています。

問 带状疱疹は高齢者が発症するリスクが高く、带状疱疹後神経痛を防ぐためにもワクチン接種での予防が大切である。市民から接種費用が高額なので助成して欲しいとの声があるが市の見解は。

答 現在国で定期接種化を検討しており、ワクチンに期待される効果や実施年齢に関して検討を要するとされている状況を踏まえ、助成することは、現時点では難しいものと考えています。

問 令和4年度から始まったHPVワクチンのキャッチアップ接種の接種状況は。

答 令和3年度までに3回接種を完了していない1,607名のうち、令和4年度中に1回以上接種した方は198名(12.3%)です。

問 定期接種の接種状況は。

答 令和3年度までに3回接種を完了していない1,173名のうち、令和4年度中に1回以上接種した方は156名(13.3%)です。

問 上記の接種状況は大変少ない数字であると感じるが、通知とは別に、はがきにQRコード等をつけて個別に知らせては。

答 効果的であるかどうかを検討し、必要に応じて活用したいと考えています。



竹島直樹
(柊の会)

病院診療費の未収金の現状は

令和4年度までで
4,837万8,760円

問 他の市民病院が診療費を未収のまま放置し、不能欠損金として処理したとの報道があったが、中央病院の病院診療費の未収金の現状は。

答 令和4年度までの診療費の未収金は、5月10日現在で、入院分3,657万571円、外来分1,180万8,189円、合計4,837万8,760円です。

問 未収金を減らすためにどのようなことをするべきと考えるか。

答 具体的には、電話連絡による分割納付の相談に応じ、納付を続けていただいていることで、時効が成立しないようにしています。今後も適正な事務を進めていきます。

問 市在住の外国人の数は。

答 令和5年3月31日現在で354人です。

問 外国人が多く定住することで、人口減少対策、労働者不足対策、地域活性化などのメリットがあることから、様々な施策を行い、市在住の外国人を増やすべきではないかと思うが、市の見解は。

答 現在のところ外国人に特化した移住定住施策の展開は考えていませんが、今後どのような支援ができるのか、国内の動向の把握に努めながら外国人が安心して生活できるよう受入態勢の充実を検討していきたいと考えています。

問 不適切保育に対する指導をどのようにしているか。

答 国が令和5年5月に策定したガイドラインに基づき、虐待等を未然に防止する環境や体制づくり等を行うよう保育所等に対して周知をしました。引き続き保育所等と緊密に連携しながら不適切保育の未然防止に努めていきたいと考えています。



山田洋子
(柊の会)

第4次市ごみ減量行動計画 の取組状況は

生ごみ排出量は減少
リサイクル率は増加

問 第4次市ごみ減量行動計画の取組状況は。

答 生ごみ減量化の推進や資源回収を行う団体に交付する奨励金単価の引き上げ、パソコンや小型家電の回収を行っている事業者と協定を締結するなどの取組により、令和4年度の市民1人が1日に排出する生ごみの量は963グラムで、令和2年度と比べ36グラムの減少、令和4年度のリサイクル率は18.7%で、令和2年度と比べて0.3%増加しています。

問 草木、剪定枝の減量化のため、粉砕機を無料で貸出しする考えは。

答 今年度策定する第5次ごみ減量行動計画の中で粉砕機の有効性などについても検討していきたいと考えています。

問 プラスチックごみを徹底的に分別回収し、リサイクルによる再生利用や熱回収によるエネルギー利用を推進する取組や市民、事業者、行政が連携、協働して使い捨てをしない活動を行うことが必要ではないか考えるが、プラスチックごみの削減についてどのような取組を行っているか。

答 容器包装リサイクル法のプラスチック以外は、燃えるごみとして処理されているため、今後は回収を進める方向で検討していきたいと考えています。

問 市のインボイス制度の登録状況は。

答 市では、取引の件数や金額の大小にかかわらず、買手側の事業者が申告の際に仕入税額控除の適否による不利益を被らないよう、一般会計や特別会計、企業会計、また特別地方公共団体である財産区など対応が必要な会計においてインボイスの登録を行い、現在制度開始に向けたシステム改修など各種準備を進めています。



山端 博
(明政一心会)

秋まつり練習時の騒音対策は

ガイドライン作成等で対策する

問 今年の秋まつりは4年ぶりの本格開催になると聞いているが、円滑な運営が望ましいのは言うまでもなく、全ての地域住民にとって配慮したものになければならない。はやしが付き物である祭りは、とりわけ騒音に関しての配慮が重要であると考えているが、これまで参加団体の練習時の騒音トラブルはないか。

答 参加団体が練習時に発する音で市へ寄せられた苦情件数は、平成30年度以降では令和2年度を除き各年度1件です。また、令和4年度の秋まつり終了後、参加団体を対象に十和田商工会議所が実施したアンケート結果では、回答があった17団体で、「これまで近隣住民と騒音トラブルになったことがあるか」との設問に、「ある」と回答した数は10団体です。

問 騒音トラブルを把握しているようだが、何らかの対策が必要ではないか。

答 参加団体とともに練習期間、時間、ルールなどを示した祭り参加団体ガイドラインを作成することとしています。また、主催者側で消音パッドなどを購入し、秋まつりの練習期間に参加団体へ支給することを考えています。

問 統廃合等により閉校となり、閉校後に活用されていない学校施設は時間が経過すればするほど、経年劣化や維持管理費等で民間利用や地域利用が難しくなる。文部科学省の「みんなの廃校プロジェクト」は、廃校の活用事例や、活用を希望する廃校情報の公表等を通じて、廃校を活用してほしい自治体と廃校を活用したい企業等をマッチングさせる取組であることから、閉校後の学校施設の活用に利用しては。

答 廃校活用のさらなる推進のため活用していきたいと考えています。



今泉 信明
(立憲農民クラブ)

森林環境譲与税を活用して 植林などをする考えは

今後の調査で対応を検討

問 豪雨災害の被害を大きくする要因の一つは上流地域の森林の伐採にある。木が無ければ雨水が河川に到達する時間は短く、流入量も多くなることから、伐採後の植林が重要と考えるが、森林環境譲与税を活用して植林などをする考えは。

答 市では、再造林率向上のため、森林経営計画等を策定し、計画的に再造林の作業に取り組んでいる林業経営者に対し、補助を行う森林整備事業補助金事業を実施していますが、市の森林経営計画等を介さずに個人単独で森林整備を行った場合、対象外となることから、金銭的負担が大きく再造林につながらないことが考えられます。対象外となる山林に対する森林環境譲与税の活用法について、林野庁が公表している事例集では、独自の補助制度により民有林野の森林整備を実施している自治体もあることから、令和6年度から予定している山林所有者に対する今後の経営や管理についての意向調査の結果を踏まえて、対応を検討していきます。

問 特定外来生物アライグマの当市における、直近3年間の捕獲数は。

答 令和2年度は31頭、令和3年度は54頭、令和4年度は86頭を捕獲し、令和5年度は5月末現在、既に14頭と、その数は年々増加傾向にあります。

問 アライグマの生息域は現状どのようになっているのか。

答 令和4年度の捕獲状況を地域別に見ると、米田地区で38頭、伝法寺地区で19頭、大不動地区で16頭、切田地区で8頭、藤島地区で2頭、初めて相坂地区で2頭、深持地区で1頭捕獲されました。



小笠原 良子
(日本共産党)

マイナンバーカード取得に際し
認知症の方や障害者への対応は

多種多様な申請サポートを実施

問 マイナンバーカード取得促進のためにどのような人員の体制をとったのか。

答 市民課住民記録係8名が通常業務のほかに対応しています。このほかに、会計年度任用職員10名を雇用し、そのうち4名が出張申請のサポート等に当たっています。

問 健康保険証の廃止は、カード取得の事実上義務化との指摘が根強く、2024年までに保険証を廃止する方針は賛成しかねる。認知症の方や障害者などに対して、どのような対応をとっているのか。

答 マイナンバーカードは本人の申請により交付されるものとなっていますが、認知症などの理由により自身で申請することが困難なケースも存在していることから、そうした方も申請の機会を得られるよう個別サポートや出張申請サポートといった多種多様な申請サポートを実施しています。

問 全国でマイナンバーカードに別人の情報がひも付けされる事例が出ているが、市の防止対策は。

答 当市のマイナポイント申請窓口での支援は、国が示しているマニュアルの手順に沿って、前の方の登録手続き後、一度ログアウトしてから登録手続きを行うなど適切に実施しており、これまで別人の情報がひも付けられた事例はありません。

問 幾つかの指定管理者から指定管理料をもう少し上げてほしいという声が届いている。指定管理者からのモニタリングで出た意見、要望への対応は。

答 適切な施設の維持管理が行われるよう、市と指定管理者で協議を行っています。



戸来 伝
(柵の会)

相撲場の基本設計と実施設計の
説明をする必要はなかったか

基本構想に沿った形のため 説明は行わなかった

問 相撲場の設計について令和4年3月22日の全員協議会以降説明がなく議会軽視ではないか。

答 予算計上をし議決をいただいています。

問 基本構想の説明以降に、基本設計と実施設計の説明をする必要があったのではないか。

答 基本構想に沿った形で実施設計まで進んでおり、ほぼ内容が変わっていないことから、説明は行いませんでした。

問 市長の中央病院の経営改善の覚悟を問う。

答 病院経営の改善については新病院建設以降、厳しい経営状況が続いていますが、経営改革検討委員会を設置し、いただいた提言をもとに改革を行いながら、「人・物・金」の経営資源を大切に活用しながら取り組んできました。その結果、現金ベースの黒字化から始まり、令和4年度は21年ぶりの純利益を計上できる見込みとなりました。令和5年度は公立病院経営強化プランを策定し、このプランの策定過程で、しっかりと議論をし、病院事業管理者と意思疎通を図りながら、病院経営の道筋をつけていきたいと考えています。

問 市長自身のリーダーシップについて、どのように分析し、評価しているか。

答 就任当初から「皆さんとつくる元気な十和田市」を公約に掲げ、当市の最上位計画となる第2次十和田市総合計画を策定し、各部の重点事業の進行管理をし、おおむね計画どおり実施できていると思っています。また、市民の命と財産を守るため、急を要する場面での確かな判断を下すなどの姿勢を大切にしながら行動してきました。リーダーシップの評価は市民の方にさせていただくものと認識しています。

議会改革特別委員会が設置されました

(令和5年6月16日の本会議において設置)

市民にひらかれた透明性の高い議会運営を目指し、議員としての資質の向上と、さらなる議会改革を推進することを目的として、特別委員会が設置されました。

構成委員

委員長	中嶋秀一	副委員長	堰野端展雄
委員	山端美樹子	委員	太田正幸
//	山田洋子	//	中尾利香
//	山端博	//	江渡信貴



～民生福祉常任委員会所管事務調査報告～

保育士の待遇状況及び 保育に係る安全対策について

国の様々な取組に対して適切に対応しており、保育士の充足状況も十分であることを確認したことから、引き続き適切に取り組んでほしいと意見集約しました。



請願

採択となりました

- 免税軽油制度の継続に関する請願
(請願者)
 - ・東北索道協会 青森地区部会 会長 柳谷 章二
 - ・一般財団法人 十和田湖ふるさと活性化公社 理事長 佐々木 千佳子
- 免税軽油制度の恒久化に関する請願
(請願者)
 - ・高見下宮農組合 組合長 苫米地 文亮
 - ・農事組合法人六日町 代表理事 村舘 強

意見書を提出しました

- ・免税軽油制度の継続を求める意見書
- ・免税軽油制度の恒久化を求める意見書

令和5年第3回定例会の開催予定

8月30日(水)	本会議 (開会)
9月12日(火)	} 一般質問
13日(水)	
14日(木)	
9月22日(金)	本会議 (閉会)

決算審査特別委員会

9月19日(火)、20日(水)

- ※会議の開始はいずれも午前10時からです。
- ※各常任委員会の開催予定日は未定です。
- ※日程は変更になる場合があります。詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行され、マスク着用も基本的に個人の判断となりました。屋外のイベントも徐々に増え、人の動きも街にも活気が戻ったように感じられます。

改選後、議会だより編集委員会は新たなメンバーに替わりました。5月1日発行の議会だよりから紙面を横書きへ変更しました。見やすくなったと感じていただけたら幸いです。今後できるだけ分かりやすく、親しみのある紙面作りを心掛けていきますのでよろしくお祈りします。
(文責 山端 美樹子)

議会だより編集委員会

委員長	中嶋秀一	副委員長	小山田剛士
委員	山端美樹子	委員	太田正幸
//	竹島直樹	//	中尾利香
//	山端博	//	氣田量子

